九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

平成13年度卒業論文レジュメ

安河内，智美

https://doi.org/10.15017/796

出版情報：教育経営学研究紀要. 6, pp.131-133, 2003-01-31. 九州大学大学院人間環境学府(教育学部門)教育経営学研究室
バージョン：
権利関係：

教育経営学研究紀要　第６号　2003年　131－133

ティーム・ティーチングによる効果的な授業経営に関する考察
－「基礎・基本」と「生きる力」の形成に焦点をあてて－

安河内　智美
（平成14年３月卒業）

Ⅰ．目　次

序　章　　研究の目的と視点
第一章　　ティーム・ティーチングの展開
　第一節　ティーム・ティーチングの導入期
　第二節　ティーム・ティーチング再生期
　　－第六次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画を通して－
　第三節　考察
第二章　　ティーム・ティーチングの授業経営の要素
　第一節　ティーム・ティーチングの展開例
　第二節　「基礎・基本」と「生きる力」の位置づけ
　第三節　考察
第三章　　ティーム・ティーチングの実践事例
　第一節　調査の枠組みと方法
　第二節　福岡市立壱岐小学校
　第三節　古賀市立花鶴小学校
　第四節　篠栗町立勢門小学校
　第五節　考察
終　章

Ⅱ．概　要

本論文では、ティーム・ティーチング（以下ＴＴとする）による効果的な授業経営に関して、特に「基礎・基本」と「生きる力」の形成に焦点をあてて以下の手続きによって考察した。

第一に、ＴＴの授業が「基礎・基本」「生きる力」の両者を形成していることを明らかにする。初めに、ＴＴの先行研究を「基礎・基本」「生きる力」の二つの視点において考察する。次に、ＴＴの展開例の分類枠組みを整理した上で、ＴＴの分析枠組みを仮説的に提示する。第二に、３校のＴＴの実践事例から、「基礎・基本」「生きる力」の両者がどのように形成されているかを、各実践事例の指導案、その他資料、インタビューを通して明らかにした。最後に、各事例から「基礎・基本」「生きる力」の連携が実現されるＴＴの授業のあり方について考察を加えた。

これまでに、授業改善の方法として実践されてきたＴＴやその分析方法においては、「基礎・基本」「生きる力」のいずれかに特に焦点が当てられ、両者の関係性に注目されてこなかったという限界があった。そこで本研究においては、「基礎・基本」「生きる力」の関係性について抽出が可能な場面として、ＴＴによる授業場面を設定した。

第一章では、導入期、再生期の各時期におけるＴＴの展開を、実践事例を含めて概観した。導入期においては、「教師の専門性を発揮する」指導による学習効果が求められており、

特徴として、大グループによる一斉指導型が主であり、学習の効率性が重視される傾向にあった。一方、再生期では「個に応じた多様な教育」の展開に対応することが求められ、小グループや個別指導を取り入れることによって、個に対応しようとする傾向が強くなった点を明らかにした。

第二章では、導入期、再生期におけるＴＴの展開例をもとに、授業の目的、ねらい別に適したＴＴ展開モデルについて検討した。また、ＴＴの授業を見る視点として、「基礎・基本」「生きる力」のそれぞれについて考察し、両者の関係を構図化し、位置づけを行った。

「基礎・基本」「生きる力」の位置づけについては、以下の２点を指摘した。

①「生きる力」は、学力の「基礎・基本」をもとに形成されるような、層的構造のもとに成り立つ。
②学力の「基礎・基本」は、知識・技能といった学力と、自己学習力に関するものによって獲得される。

ＴＴの展開例については、全体の説明や、オリエンテーション、まとめ等は大グループで行われ、グループ化される場合は、能力別や課題、興味・関心別によって編成される点をまとめた。学力の「基礎・基本」を定着させる段階においては、小集団（個別）が効果的であり、「生きる力」に見る、得た知識を活用、応用したり、発表、まとめたりする場面では大グループの編成が用いられることが多い点も指摘した。

第三章では、授業にＴＴの方法を取り入れている３校を対象に、第二章で述べた２点に加え、①「生きる力」と「基礎・基本」の両者がどのように形成されているか　②両者の形成にＴＴがどのように効果的に機能しているかに注目し、授業経営の様相を描き出した。

その結果、３校の事例を分析することにより、各学校で「基礎・基本」と「生きる力」が有機的に結びついた結果、授業場面において知の連携が図られていることが明らかになった。また、ＴＴの授業経営方式に関して、３つの事例に共通する点を指摘した。

①コース別ＴＴがとられている。（習熟度別、興味・関心、課題別）
②子どもたちが活動（作業）する場面が取り入れられている。
③学習過程が３段階に設定されており、基礎的な段階から応用、発展の段階が仕組まれている。

壱岐小学校の事例は、算数における習熟度別編成である。学年全体を３つの習熟度別に分け、各コースのレベルで基礎・基本の定着を図り、応用、発展に繋げることが目指された。授業後の結果から、子どもたちが算数を理解したこと、自力解決力が身に付いたという点から、「基礎・基本」と「生きる力」の形成が見られたことを明らかにした。花鶴小学校の事例は算数であり、授業中の問題解決の場面において、子どもたちが自ら選ぶコースが設定されている。子どもたちが算数を理解すると共に、算数の楽しさを学び、それを表現する力、更に学ぼうとする意欲が見られたという結果から、「基礎・基本」と「生きる力」の形成が見られたことを明らかにした。勢門小学校の事例は、外国の人達との交流による総合的な学習の時間である。学年を興味・関心別コースに分け、学習集団が編成されている。その結果、子どもたちは、外国の人達と交流したという体験によって学習意欲を高め、発見や感動を自分なりに表現する力をつけることができた。よって、「生きる力」に含まれる資質、能力の形成が見られ、それを支える学力の「基礎・基本」の形成も見られたことを示した。

３つの事例からは、「基礎・基本」と「生きる力」の構図に見る層的構造の関係によって、両者が形成されていることが明らかになった。

以上のことから本論文では、実践事例を通して、以下の点を明らかにした。

①「基礎・基本」「生きる力」は、層的構造の関係にあるといえる。
②「基礎・基本」には、知識、技能という学力の面と、「生きる力」に相当する資質、能　力の面がある。
③「基礎・基本」「生きる力」の関連性がＴＴの授業において見られた。
④③のような授業を可能にする授業経営においてはＴＴの導入が効果的である。

今後は他学年、他教科においても調査を行い、授業経営に関する研究を深めていくことが課題である。

【参考文献】

・安彦忠彦「基礎・基本と学力」『教職研修総合特集　子どもの学力読本』教育開発研究所，2001。
・大野蓮太郎・北条小学校共著『実践ティーム・ティーチング』明治図書，1966。
・九州個性化教育研究会（加藤幸次監修）『ティーム・ティーチングの計画・実践・評価』黎明書房 1995。
・下村哲夫「日本型ティーム・ティーチングの問題点」児童研究会編『児童心理』金子書房，1995 年 6 月，106-111 頁。
・高階玲治「ティームティーチングと組織文化の改善」『学校経営』第一法規，1993 年 6 月，71-89 頁。
・高浦勝義（代表）平成 8-10 年度科学研究費補助金（基盤研究 A）研究成果報告書『ティーム・ティー チングによる指導の効果に関する研究（第一次報告書）―ティーム・ティーチングの実施状況に関する調査結果―』1997 年。
・田村哲夫「『生きる力』教育は基礎基本の充実から」『学校運営研究』2001 年 8 月，20 頁。
・森部英生「『一学級当たりの定数』どう論議されてきたか」『学校運営研究』明治図書，1993 年 1 月，75-79 頁。